

英知通信



発行
英知大学
兵庫県尼崎市若王寺
2-18-1 (〒661)
TEL (06) 491-5083
編集
英知大学広報室

1985. 3. 30.

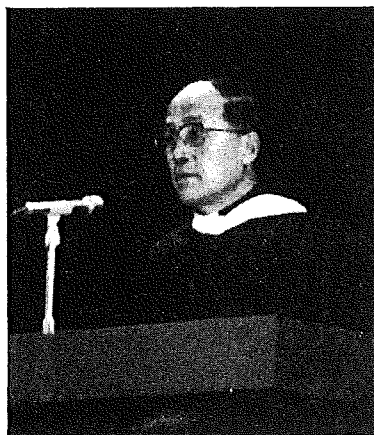
UNIVERSITAS SAPIENTIAE

No. 42

卒業式式辞

真・善・美を求めて

学長 傘木澄男



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私は皆さんが、これからの人生において、その目的並びに心構えとすべきことについて、日頃考えておりますことの一端を申し述べて、皆さんへのはなむけの言葉といたしたいと思います。

四年前に本学に入学された時、私は皆さんに「これからの学生生活をただ漫然と過ごすのではなく、目標を設定して、明確な目的意識をもって送るよう」とお勧めしました。確かに、目的がはっきりしているかどうかで、人の生き方とその実りには、大きな違いが出てきます。皆さんは今、自分の学生生活を振り返ってみて、大きな実りがあったと思いでしょうか。学業にせよ、クラブなどいろいろな活動にせよ、目標をもって頑張ってきた人は、今学生生活の手応えある成果を感じておられ

ることでしょう。反対にただ何となく過ぎてしまったように感じている人があるとすれば、多分この目的観が希薄であったというのではなからうか。

いずれにせよ、過ぎたこととして、今皆さんに問題なのは、これからのことです。これから一人の人間として長い人生を生きていけるわけですが、生涯の終り迄のこの長い期間を、しっかりとした目的意識をもって過ごすか否かで皆さんの人生がどのようなものになるか、そこに大きな違いが出てくることは明らかであります。新しい出発に当たって、このことを皆さんに考えて頂きたいのです。古来、人間にとって究極の理念・最高の目標は、真・善・美であるとされて来ましたが、確かに人間は誰でも真・善・美を求めています。目先の具体的な何かを求めているも、実はその内に究極的に求めているものは、真であり、善であり、美であります。これは単に理論上のことではなく、人類の、そしてまた個々人の経験上の事実であります。世界と人間の真実・真理とは何か、人間の善なる在り方とは何か、美とは何か、——古来人間は誰でも、どんな民族でも、これを求めてきました。そこに人間の文化が生まれま

り、真・善・美の認識と表現の仕方は相異なり、地球上には様々の文化

が現われました。その相異なる文化の交わりによって、人間の文化は一層豊かになります。今日国際化の時代を迎えて、あらゆる文化の出会いが行われ、人類の文化は飛躍的に発展しつつあります。他の文化との接触によって私達は、真・善・美をより一層深く把握することができるようです。

皆さん、私たちは人生の究極目標を真・善・美の追求に置くべきではないでしょうか。まず、真理を求め、真理に即して生きることに。ここで真理とは、人間のまことの在り方・生き方を言います。聖書にも「真理はあなた方を自由にするであろう」と言われていますように、真理に即して真理の上に築かれた人生こそ、幸福な人生です。社会のムードによって人の物の見方、人生態度、価値観は変わり易いものです。そこに欺瞞があり、虚偽が生じます。虚偽は人間を深く傷つけます。私たちはこうした変わり易さの中に一本流れているもの——真理、人間の真実を見いだし、見失なわぬようにしていかなければなりません。それこそ真の英知というものです。生活の雑事や楽しみや仕事の中に自分を見失うことのないよう、つねに真理を求めていくことが大切です。

そして次に善の追求。善とは人間を完全にするものであり、それ故に人間にとって望ましいものとして欲求され、追求されるものです。これに反し、この目的を阻み、そこから人間をそらせるものが、悪です。善は、云うまでもなく物質的な善だけではなく、身体と精神・個人と社会の調和・連帯を通して、人間の人格を最高善である神へと完成させていくものでなければなりません。私達の人生は、善と闘って善へ、罪を離れて聖性すなわち本源との一致へと

絶えず進歩していく人生でありたいと思います。社会の不正や争いという悪をなくして、正義と平和という善を求め、環境破壊や不道徳という悪を排して、健全な環境の保護と人間道徳の向上という善を、私達は求めていきたいと思います。人に対する思いやりと奉仕によって、この世界のより大きな善と、より善き社会の実現のために尽くしていきましょう。

次に美の追求。美とは見る者を歓びと楽しさで満たし、幸福にするほどの事物の在り方です。聖トマス・アキナスは美を「存在の輝き」と呼んでいます。確かに美は理想に達して完成した存在の姿です。どんな存在であれ、そのすべての本質的特性が完成されている時、それはその存在の輝きを放ち、美しさを具えます。子供には子供の、青年には青年の美しさがあります。壮年には壮年の、そして老年にも老年の美しさ、完成された人間存在の輝きがあるはずで、昨今の青年の中には残念ながらこの点すきだらけの人が少なくありませんが、皆さんはどうか外面の恰好の良さや可愛らしさではなく、一本筋の通ったピリッとした若者らしさ、青年のみが放つことのできるある輝き、若者の本当の美しさというものを身につけて欲しいと願わずにはおれません。昔から日本人は真理よりも美を重んじ、真理もまた美である限りで受け入れる国民であると言われてきました。それ程に美を愛する伝統は今や失われようとしているのでしょうか。美を感じる心が失われる時、崇高なものへの驚きと畏敬を覚える心も失われます。こうして今日、軽薄な風俗がはびこり、礼儀が失われ、人のことはと行いは乱れ、貧しくなり、低俗な趣味や娯楽が幅をきかせています。醜悪なものが多すぎます。それは存在の

欠陥の生む暗さです。皆さん、私達は生活の中に美を感じる心、美しいものを愛し、美しい生き方を大切にすることを回復すべきではないでしょうか。低俗な風潮に流されず、できあいの趣味やインスタント文化に追いつけず、真に美を求め味わうことのできる豊かな趣味の生活を作りあげていきたいのであります。こうして人は無気力から脱して、生き生きと生きることができるようになります。英知大学の卒業生には、世を腐敗から守り、世に良き味をつける、地の塩となり、世の暗闇に輝いて明るく照らす、世の光となる使命が託されているのであります。

真・善・美の追求——これは大いなるチャレンジです。私達に一生の間、不断の自己教育と自己発展を要求する、実に生涯の大事業です。この真・善・美の追求が人間の目的・目標となり得ますのは、真・善・美が、その根源であり、完全なる真理・完全なる善・完全なる美そのものである神ご自身の、この世界における目に見えぬ現われであるからであり、私達人間が究極の目的として神に向かい、神に到達して始めて完成を見いだすように創造された存在であるからであります。真理と善と美の追求を通して私達は、着実に私達人間の源であり、目標である神に向かって進んでいくことができるのです。

私達人間は確実な完全な幸福を求めています。それは一体どのような幸福でしょうか。病氣や失敗、あるいは他人の非難や迫害によって崩れ去るようなものも幸せではありません。そういう一切の攻撃に耐えさせることができる幸福でなければなりません。それは結局、私達が良心に省みて恥じることのない生き方であり、自分の人生が、いかにささやかなものであっても、この世界と人類の進

化と発展、その前進に、意味のある貢献をしているのだという確信ではないでしょうか。真善美の追求を目的とした生き方は、まさにこの確信を私達に与えてくれるのであります。

今日、人間関係が大変難しくなり、病んでいきます。家庭でも、学校でも、一般社会でも、人間関係がうまく行かず、様々の問題が起こっています。これを解決し、いやして行くために、私達は真剣に新しい人間関係、他者との新しい関わり方というものを学んで、身につけていかなければならないと思うのです。それはキリストの福音が私達に教え、示しているものです。新しい人間関係に基づく新しい人間同士の関わり方についての教えです。自分が一人の人間としてもう一人の人間である相手を理解し、赦し、受け入れ、尊重していく、そういう自己確立のできた人間同士の関係であり、関わり方です。夫婦も親子も、教師と生徒同士も、その関係はまず何よりも、人間と人間の人格的な関係、人格的な愛の関係として扱え直され、確立されねばならないということです。この自覚と努力なしには、今の家庭や学校の問題を解決することはできないでしょう。私達日本人はこのことを最大の弱点としています。わが国の文化においては、人と人との心の触れ合いということがいかに困難か、人格同士の出会い・真の対話関係のむづかしさの問題は深刻です。わが国特有のいわゆる「和の文化」では、一切の人間関係が和を重んずることに向けられるために、自分の主張も意見も願望もできるだけ抑えることが必要とされ、そのために自分の個性も自主性も確立することができず、その結果相手と深いところで交わることをますます恐れ、避けるようになり、和のために心の交流が断

ち切られ、こうして得られた和も心の繋がりのない和に終わってしまっているというのが現実ではないでしょうか。先日、海外研修旅行の学生たちが帰ってきましたが、空港に迎ええた私に学生達が次々と興奮気味に話してくれたのは、ホームステイの家庭の人達との素晴らしい心の交流の体験でありました。それは彼らがかつて経験したことのない、そして、日本へ帰ってきた途端に再び閉ざされてしまったところの真に人間的・人格的な関わり合いの体験でありました。皆さん、私たちは世界のあらゆる人々に一人の人間として、人間同士の関係をもって関わっていくことができるように、また家族・肉親のような親しい人々とも人間同士の温かい対話の姿勢、人格的な関係に関わりを持つことができるようにしていくことを、これからの生活の中で各自が緊急の課題として考え、努力していかなければならないと思うのです。

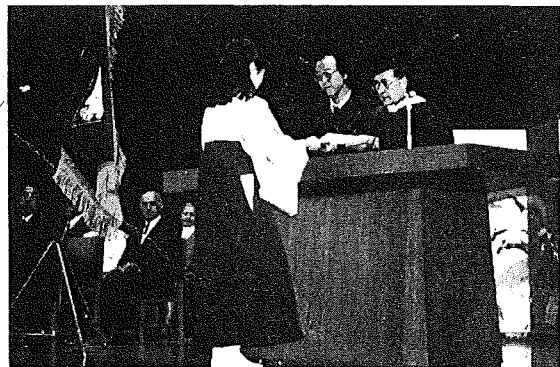
最後に私は皆さんに、どんな困難・逆境においても忍耐をもって、強く生きていかれるようにと望みたいと思います。「成功は人間の表側を飾るに過ぎないが、失敗は人間の内面を豊かにしてくれる」ものです。「すべての生物は逆境の時だけ成長する」と云われますように、失敗や逆境は、それをねのけることによつて、我々からかくれた力を引き出し、順境の時よりもより大きな発展を可能にしてくれる貴重な機会であります。一生の内にはいろいろな失敗や不幸、敗北や暗闇があります。しかし人生における勝利者が誰であるかは最後まで分かりません。皆さんは非観や絶望、短氣や諦めは自分には縁なきものと思つて下さい。皆さんの前には常に未来があります。その未来を見詰めて前進して下さい。

人間の真の価値は過去ではなく、未来にあります。未来に開かれ、未来に向かっているか否か、未来に希望し、可能性に挑戦しているかどうか、こつこつと努力して現状を改善していきま。かれには未来がある。かれには必要がないからです。また他社に対して寛容であり、他者の立場に立って物を見るのができ。かれには未来があるので、現在の優劣・勝敗にあわてる必要がない

思い出の日々を胸に

希望の旅立ち

— 昭和五十九年度卒業式 —



今年で第十九回目を数える昭和五十九年度卒業式は、夜来の雨が降り止まぬ三月十九日の午前十時から本



学講堂で挙行され、神学科七名、英語英文学科百十八名、西語西文学科三十四名、仏語仏文学科四十四名、

からです。また人間の心と精神的価値を大切にするとあります。かれは未来に開かれているので、余裕があり、目先の物質や快楽に溺れる必要がないからです。未来を信ずる、こういう生き方こそ、最も人間らしい、これからの人間の生き方ではないでしょうか。

終りに卒業生皆さんの輝やかなしい門出を心から祝福し、皆さんの前途に神のたえざる御導きとお恵みがありますように祈りまして、式辞いたします。

あわせて二百三名の門出を祝った。式はまずメルオー教授の電子オルガン演奏に始まり、傘木学長から卒業生一人ひとりに卒業証書が授与された。傘木学長から別掲の通り温かい言葉で式辞が述べられたあと、来賓の同窓会会長福原宏章氏が挨拶に立ち「幸福とは、幸福を幸福と感じる心の能力であること、また幸福の四つの条件は仕事、家庭、趣味、信仰であり、これらがバランスよく満たされなければ真の幸福とは呼べないこと」など、本学から巣立った先輩として心こもった激励の言葉を贈った。これらに呼応して卒業生代表から「将来よき社会人となるよう、たゆまぬ努力を続けます」と謝辞が述べられて、校歌斉唱のあと歓喜と寂しさの交錯のなかで正午すぎに閉式した。式終了後は振り袖姿の華やかなムードのなかで、クラスメイトと共にカメラに収まったり、恩師と手をとり合っていたりも別れを惜しむ姿がみられた。屋外では春雨のなか、ポプラ並木の沿道に並んだ大勢の課外クラブの後輩達の温い見送りを受けながら、思い出深い大学キャンパスからそれぞれに散っていく。この日の午後五時から大阪のホテルプラザで全学科合同の謝恩会が開かれた。なお今年度の学科賞の受賞者は次の通りである。

学 科 賞

- 神 学 科 北村 善朗
 英語英文学科 木村 幸子
 西語西文学科 藤川 規子
 仏語仏文学科 野本 昌樹
 イスパニア大使賞 江口 美智子
 西語西文学科 高畑 薫
 村越 直也
 笠井嘉代子
 中村 真理

留学を志す学生諸君へ

(西語西文学科講師・イスパニア演劇)



山口 忠 志

本学の海外研修旅行をきっかけとして本格的に長期留学を志す学生が目立ってきている。そこで国際交流委員会の一員として、スペインの場合、ほとんどの大学が国立であり、近年学生数の増大により選抜試験にパスしなければ入学は難しい状況にあり、我々外国人はむしろ各大学に併設されている外国人向けコースに籍を置くのが無難である。外人コースと言っても、各大学の正教授が担当している場合が多く、スペイン人学生よりも恵まれた環境にあると言える。

留学であれ遊学であれ、言語も生活習慣も異なる外国に生活するということは、単にその国の言語や文化に対する理解を深めるといふ目的の他に、自分の国を外から眺め、外国と比較することによって今までその中に居ては見えなかったものが見えるようになるという点で、自国の理解をも深めることになるものだ。さらに自分と異なったものの見方、価値観に基づく生き方のあることを身をもって体験することは、その人の人生観に大きな幅をもたせてくれることにもなる。それ故先入観なしに、柔軟に順応しうる若い学生の時にこそこのような体験をする意義がある。スペインに関して言えば、この時期こそが何の抵抗もなく自然にT.M.E.O. (お前と俺の間柄) の世界が体験できる時期なのである。

とここで留学と言えば、まずその国の言葉が話せなければと誰しも考

えることである。しかし実際の会話というものは驚くほど言語以外の場の文脈に依存したものであり、少々のブロークンでも会話は成立するものである。もちろん日本人のように親しくなければならぬと言葉に出さなくても解り合えると思うのは大間違いで、言葉によるコミュニケーションが大前提ではあるが、

留学をより実りあるものとするのに必要なことは、読書力、講義内容を手早く要約しノートする力、それとレポート作成力である。スペインの場合、ほとんどの大学が国立であり、近年学生数の増大により選抜試験にパスしなければ入学は難しい状況にあり、我々外国人はむしろ各大学に併設されている外国人向けコースに籍を置くのが無難である。外人コースと言っても、各大学の正教授が担当している場合が多く、スペイン人学生よりも恵まれた環境にあると言える。

授業に関しては欧米の大学に共通して言えることだが、最初に年間の講義スケジュールがプリント配布され、テーマと参考文献の紹介がなされる。講義はこれら参考文献の知識を前提に進められるので、前もって文献に目を通しておくことが最低限の条件である。そのためには相当の読書力が要求されることは明らかである。また講義内容を手早くノートすることもできないければ、立て板に水のごとく流れてゆく講義についてゆくことは至難のわざである。

さらに毎週レポート提出が義務づけられるので、読んだ内容を要約し

まとめ方も要求される。私の場合も毎週一冊ずつ小説などを読み、その内容・文体的特色などをコメントしたレポート提出を義務づけられ四苦八苦した経験がある。こういうことは日本においてもできることであり、将来留学しようとする学生は普段から訓練しておくべきである。最初のうちは何かとまどう事が多いが、このような苦労を重ねてゆくうちに語学力は自然と身につけてゆくものであるから、忍耐をもって頑張るべきである。

最後に、これは留学の経験者であれば誰でも痛感することであるが、外国の知識以上に自国の文化なり歴史なりの理解を深めておいて欲しい。外国で生活する以上、その国の理解に力を注ぐのみならず、相手にも自国のことを説明し理解してもらわねばならない。私も日本のことを色々と質問され返答に窮したことが度々で、如何に自分の国のことに無知であったかを思い知らされたものである。これは語学力以前の問題である。真の国際交流とは、お互いの習慣やものの考え方、価値観の違いなどを十分に認め合った上で理解しあおうとするところから始まるものであると思う。単に外国の知識を吸収するばかりでなく、自国の文化なり歴史なりをも相手に理解してもらおう努力を怠るべきではないと思う。

こうした苦労を乗り越えて、さらに学問的成果をあげる留学生がひとりでも多くこの英知大学から出てくることを願って止まない。

昭和59年度就職状況

一、概況
 本年はマスコミの報道によれば就職はかなり広い門という印象を与えていましたが、やはり学生の希望する企業については相変わらず学生が殺

	英	西	仏	計
男	八五・五	七〇・〇	八四・四	八二・九
女	八四・四	五七・一	九〇・九	八二・〇
計	八五・二	六六・七	八六・〇	八二・七

(一) 就職率 (単位%)
 今や学校教育も大きく変革されようとしております。専門学校の追いあげも急です。諸君の奮起を期待します。

二、本年度の就職率と主な就職先
 今や学校教育も大きく変革されようとしております。専門学校の追いあげも急です。諸君の奮起を期待します。

到して、極めて厳しい状況でした。産業界はご存知のように輸出の好調、原油の値下げ等国内景気を刺激して多方面に多くの求人が認められ、来年度もこの傾向は続くことでしょう。私大連盟や関西学生就職懇談会に出席しましても景気の良い話ばかりですが、さすが女子大生を抱える大学においては就職は極めて厳しい報告を受けております。

求人が最も多く増加した企業はエレクトロニクス関連企業でハード、ソフトを問わず、また大幅に伸びており他の企業もまたエレクトロニクスの知識をもった人材を求めています。特に女子学生の場合特殊な技能、知識をもった学生は就職も有利に運んでいます。一般女子学生は各大学と就職に苦慮しているのが現実であります。

今後の就職の課題は学生諸君が入学当初から自分の志向する職種を考え、常に必要な知識と技能を最少限度修得しておくことが必要でしょう。それには基礎学力を高めるため平素の授業に必ず出席して自分の実力を養ってください。

(二) 主な就職先
 日産観光、全日空ホテル、都ホテル、西武百貨店、そこら百貨店、ロイヤルホテル、小泉産業、大陽神戸銀行
 (二月末現在)

「ガラスの靴をはかないシンデレラ」

柳川 真弓
(昭和59年度西語西文学科卒業生)



いつだったかシエスタ(昼寝)を
楽しもうと公園のベンチにすわった
時、そこに一冊の本が置いてあった
のです。きつと子供が忘れていった
んでしょう。私は暇つぶしにその本
を読み始めたのでした。

時は現代、所は小さな国ワンダー
ランド。この国にシンデレラという
女性とピーターパンという男性が住
んでいました。この二人は普通に高
校を卒業し、浪人も留年もせず普通
の成績で普通に四年間の大学生活を
終え、シンデレラはOLに、ピーター
パンはサラリーマンにと普通のコー
ースを歩いています。こんな二人に
ある日、この国の王様が出した宝ク
ジが当たったのです。二人はお城に招
待され、王様からプレゼントが手渡
されたのでした。そのプレゼントと
いうのは……なんと残念なこと
に次のページがちぎられてしまっ
て、プレゼントや話の結末がわからない
のです。でも童話なんて結末は幸
わせに暮らしましたとき、に決まっ
てます。私は本を放り出し、普通の
大人と同じようにほんやりとシエス
テの風景をながめていました。
この話を讀まれて皆さんはどう思
われましたか。語り手である「私」
と同じでしたか？私は普通の大人で
はありませんから、それはそれはい
ろいろな事を考えました。童話がま

だ理解できるなんて子供のようで、
早く大人になれるかと思われられるかもし
れませんが、でも私はもう少しこのまま
でいたいのです。この考えは特に最
近の大学生に多く、「モラトリアム」
と言われています。一般には悪いも
ののように思われていますが、私は
この紙面を通して大きな声でいい
たいのです。「モラトリアムだっ
ていいじゃない」ってね。私達はSome-
thingを求めて大学に行き、Something
をつかまえて卒業したいのです。そ
れを手に入れてこそ「大人」になれ
ると思うのです。普通の大人の皆さ
ん、もう少し待っていて下さい。時
が経てばモラトリアムに終止符が打
たれるでしょう。その時の「夢はか
なわなかったけれど力一杯やったん
だ」という気持がSomethingではな
いでしょうか。少々理屈っぽくなりま
したが、とにかく「何事も自分で決
めて、自分で歩いていく」それが私
の生き方であり、後輩に贈る言葉な
のです。そして今まで育ててくれた
両親と見守ってくれた先生・先輩ど
うもありがとう。お互いに傷つけ合
いながらここまでやって来れた友人
達これからもよろしく。

最後に皆さんに聞きたいんだけど、
もしあなたが王様なら二人に何をプ
レゼントしますか。そうです、あの
二人、ガラスの靴をはかないシンデ
レラと飛べないピーターパンに……

入学試験

昭和六十年年度の入学試験は、推薦
入学が五十九年十一月二十八日・二
十九日・三十日、一般入試は六十年
二月十四日に実施された。今年度の
志願者数は、八百六十三名で、昨年
度を僅かに下回る志願状況となった。
入試科目は英語・国語のほか一般に
のみ論文試験が加えられた。英語に

ついては、中学・高校における英語
の総合的能力を体得しているかの把
握を目的として、長文読解、英文構
成、語法、語彙等に関して出題され
た。論文は、日本の国際化に関して
の出題で、課題文の読みとり、記述
の正確さや所定の字数を書ききれて
いるか、また誤字や当て字なども評
価の対象となった。入試結果は別表
の通り。

学 部	募集 人員	志 願 者			受 験 者			合 格 者			入 学 者			倍 率	
		推薦	一般	計	推薦	一般	計	推薦	一般	計	推薦	一般	計	推薦	一般
英 語 英 文 学 科	150	190 (58)	340 (95)	530 (153)	186 (58)	284 (61)	470 (119)	81 (41)	121 (47)	202 (88)	80 (40)	67 (25)	147 (65)	2.3	2.3
イ ス パ ニ ャ 語 イ ス パ ニ ャ 文 学 科	50	47 (9)	108 (23)	155 (32)	44 (9)	98 (20)	142 (29)	20 (9)	51 (18)	71 (27)	20 (9)	30 (13)	50 (22)	2.2	1.9
フ ラ ン ス 語 フ ラ ン ス 文 学 科	50	42 (6)	123 (19)	165 (25)	41 (5)	109 (15)	150 (20)	19 (4)	52 (12)	71 (16)	18 (4)	28 (9)	46 (13)	2.2	2.1
神 学 科	10	4 (1)	9 (3)	13 (4)	4 (1)	9 (3)	13 (4)	4 (1)	6 (3)	10 (4)	6 (1)	6 (3)	10 (4)	1.0	1.5
合 計	260	283 (74)	580 (140)	863 (214)	275 (73)	500 (99)	775 (172)	124 (55)	230 (80)	354 (135)	122 (54)	131 (50)	253 (104)	2.2	2.2

受験者合格者 () 内女子内数

定期検診の案内

4月11日、2回生の内科およびレ
ントゲン検診実施。
3、4回生には、7月4日(土)に
実施しますので、授業の合間に必ら

研究室だより

ず受けて下さい。詳細は学内掲示に。
奨学生の募集について
日本育英会(2、3回生)、英知
大学奨学金(2回生以上)、大阪府
育英会(府下在住の者)の奨学生を
募集しています。前年度の成績と収
入状況によって選考されます。希望
者は学生課まで申し込んでください。

出版

西山俊彦教授(教養課程)は先に京
都大学に提出した学位論文「宗教
的パーソナリティの心理学的研究」
を、大明堂より出版した。(昭和
59年2月発行、三三六頁、七五〇
円)この刊行については昭和59年
度文部省研究成果刊行費の助成を
受けた。
玉谷直實教授(教養課程)は「母親
の深層」(共著。有斐閣。三三三
頁。一、八〇〇円)―母性と女性
の自己実現―を出版した。
G・ベッキ教授(神学科)はあかし
書房から「福音の心」―修道誓願
の世界―(二〇〇頁)を出版した。
芝垣哲夫助教授(英語英文学科)は
世紀末研究誌第八号(「C.A」出版
本)と題する評論を寄せた。
北城健次助教授(西語西文学科)は
世紀末研究誌第八号(「C.A」出版
本)、「テレーサ・デ・ヘスース」
について評論を寄せた。

英知大学論叢「サヒエンチア」
第十八号掲載の研究論文
西山俊彦教授
多元的事実の位相的構造―社会学
的立論への予備考察(3)―
沼野元義講師
扱一式各観テストの信頼性―数理

計量モデル―
奥村和滋講師
希望の教育と生きられた空間―ボ
ルノウに学ぶ人間形成の原空間―
松浦周介講師
ツウリムンの行動における個性に
ついて
G・ベッキ教授
The Receptacle-Vessel motif in
Tao Te Ching and in Western-
Christian Tradition……………
岸 英司教授
祈りについての神学的一考察
中野正勝助教授
神のペルソナ表現
原 一郎教授
The Song of Solomon:
A Pastoral-Ballad
井上博嗣教授
D.H. Lawrenceの短編
"The Primrose Path" をめぐ
って―「永遠の少年」における愛
の遍歴―
小林 裕教授
ウオルター・ペイターの「ジョル
ジオ・ネッ派」について
J・L・アルベレス教授
Valignano (1598) sobre su
"Apologia"
北城健次助教授
La Experiencia afectiva en las
obras de Santa Teresa de
Jesus……………
蔵本邦夫講師
上田 敏とイスパニア文学
平山篤子前非常勤講師
パードレ・ホセ・デ・アコスタと
「対明戦争を正当化する諸論拠」
に対する反論」

慶弔
結婚
奥村和滋講師(教養課程) 昭和六
十年三月二十四日
藤木範子(十二月末会計課退職)
昭和六十年二月三日
計報
井勢健三助教授(英語英文学科)
母堂逝去 昭和六十年三月十三日